

# ETC2.0プローブ情報等を 活用した筑波山地域の 観光交通分析

(研究期間：平成28年度)



道路交通研究部 道路研究室 交流研究員 立川 太一 交流研究員 加藤 哲  
 交流研究員 末成 浩嗣 主任研究官(博士(工学)) 橋本 浩良 室長 瀬戸下 伸介

(キーワード) ETC2.0プローブ情報、観光行動、利用経路、滞在時間

3.

生産性革命

### 1. はじめに

国土交通省で推進している生産性革命プロジェクトのひとつとして観光産業の革新が掲げられている。そこでは来訪客に関するデータ収集・分析が不十分という課題があげられている。

ETC2.0プローブ情報の特徴を活かすことで利用経路・滞在時間等、来訪客に関するデータを収集・分析できる可能性がある。本稿では筑波山地域における観光交通実態の把握分析結果について紹介する。

### 2. 筑波山地域の観光交通実態

2016年4月29日(金)～5月8日(日)を対象として、筑波山地域に滞在したと判定される自動車をETC2.0プローブ情報から抽出し、利用経路(図1)、滞在時間(図2、表1)、延べ滞在車両数(図3)を整理した。

首都圏発の滞在車両の多くは首都高速道路、東京外かく環状自動車道及び常磐自動車道を利用し、谷田部IC、土浦北ICを經由している。北関東自動車道から桜川筑西ICを經由したものもみられる(図1)。

滞在時間を見ると、5時間以内の滞在が約80%を占める(図2)。また、6時台～9時台に筑波山地域に到着した車両は3時間～5時間といった比較的長時間の滞在が多く、10時台～13時台に到着した車両は2時間以内といった比較的短時間の滞在が多い(表1)。さらに、延べ滞在車両数を見ると、9時台～12時台に筑波山地域に滞在している車両が多い(図3)。

筑波山地域では、①朝早く来訪する人は登山を楽しむ等比較的長く滞在すること、②午後から来訪する人はケーブルカー等で山頂を目指す等比較的短時間の滞在をしていること、その結果③9時台～12時台に滞在している人が多いことがうかがえる。

### 3. おわりに

ETC2.0プローブ情報は利用経路・滞在時間等、観光交通実態の把握分析に有効であることが分かった。さらなる観光行動の把握に資する分析を検討する。



図1 筑波山地域の滞在車両の利用経路

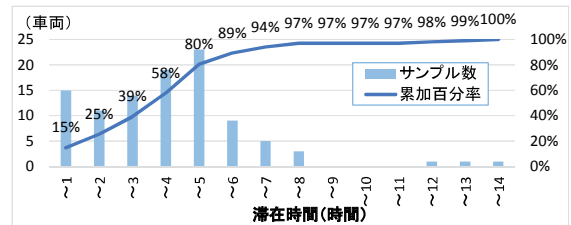


図2 筑波山地域の滞在時間分布

表1 筑波山地域の時間帯別滞在時間別車両数

	到着時間帯																							合計	
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		23
～1時間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	3	1	4	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	15
1～2時間	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	2	0	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
2～3時間	0	0	0	0	0	1	2	2	0	2	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
3～4時間	0	0	0	0	0	4	3	2	1	2	2	1	2	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
4～5時間	0	0	0	0	0	3	4	2	1	4	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23
5～6時間	0	0	0	0	0	1	2	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
6～7時間	0	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
7～8時間	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
8時間以上	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	0	0	0	0	0	0	12	13	15	11	12	13	6	12	4	2	1	0	0	0	0	0	0	0	102

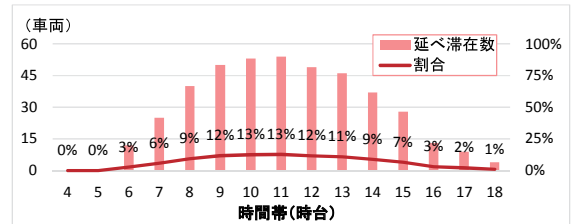


図3 筑波山地域の時間帯別延べ滞在車両数